

小学校 社会科 部会

部会長名 川崎町立池尻小学校 校長 高上 克也

実践者名 川崎町立池尻小学校 教諭 四郎丸 華有

1 研究主題

よりよい社会を形成する人物の営みを通して自分の生き方を創りつづける社会科学習

～ 子どもが主体的に学習問題を追究する教材化の工夫を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

我が国の社会は、「Society5.0」に代表されるような先進的なテクノロジーによる社会全体の変革や少子高齢化や生産年齢人口の減少といった社会構造の変容などの急激に変化しており、複雑で予測困難なものとなっている。

令和 3 年 1 月に中央教育審議会より出された答申「令和の日本型教育の構築を目指して」では、予測困難な時代について、「新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められていると言えよう。」と述べられている。先行きが不透明な時代だからこそ、その時代の社会をよりよくしていこうとする「人物の営み」を通して、自分自身の「生き方」について考えることが大切であり、そのための資質・能力を育成していくことが求められている。

(2) 社会科教育のねらいから

現行の学習指導要領では、社会科において「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」ことを目標としている。この資質・能力について示した三つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性等」の具体の一つが、「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」とされている。「よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度」とは、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度であると述べられている。また、社会的な見方・考え方とは、「社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であり、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的な事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）」とされている。

これらのことから、現代社会の在り方のみにとどまらず、社会的な見方・考え方を働かせ

ながら、社会的事象の意味などを多角的・多面的に考え、将来の主権者として自分の生き方を創ろうとする力の育成が今後望まれている。

(3) 福岡県社会科研究協議会との関連から

今年度、本校において福岡県社会科研究協議会（以下、福祉研）研究大会が実施された。研究推進にあたっては福祉研と連携しながら行ってきた。福祉研では、令和 6～8 年度の研究主題として「よりよい社会を形成する人物の営みを通して自分の生き方を創り続ける社会科学学習」を設定した。この研究主題で福祉研がめざす「生き方を創りつづける」とは、「人物の営みを通して」学ぶ過程で、「問い」を繰り返すことであり、「自分にできることは何か」「社会にどう関わっていくのか」などの「問い」をもち、行動しようとし続けることである。

また、筑豊部会では学習に主体的に取り組むことができないという、子どもたちが抱える課題克服のためにこれまで一貫して「子ども主体の授業づくり」に視点をあてた研究に取り組んできた。

第 47 回（平成 16 年度 下山田小学校）県大会では、「子どもの考えを生かす学習活動の工夫」を副主題とし、子どもの主体性を生かすような学習展開を通して、社会的事象に対する見方・考え方を多面的に深めていく活動の在り方について研究を行った。

第 52 回（平成 21 年度 庄内小学校）県大会では、「多面的な見方・考え方を育てる集団思考の工夫を通して」を副主題とし、子どもの問いを生かした拮抗場面の設定や評価の工夫を通して、自分なりの考えを創る思考の在り方について研究を行った。

第 55 回（平成 24 年度 大藪小学校）県大会では、「子どもの考えを深める学習活動の工夫を通して」を副主題とし、切実な問題を窓口にし、段階的に問いを深め社会的事象に関わろうとする意欲や態度を育てる活動の在り方について研究を行った。

第 59 回（平成 28 年度 山田小学校）県大会では、「子どもの考えを深める学習の在り方」を副主題とし、社会的事象に繰り返し関わりながら、多面的に人物の行為を理解し、持続的な社会の見方・考え方を形成して学習の在り方について研究を行った。

第 64 回（令和 3 年度 牛隈小学校）県大会では、「子どもが主体的に学び続ける単元構成の工夫」を副主題とし、子どもの素朴な「問い」を取り上げた学習問題づくりや交流活動の工夫について研究を行った。

このような研究の流れの中で、筑豊地区では、前研究である子どもの素朴な「問い」を取り上げた学習問題づくりや交流活動の工夫に加え、子どもの主体的な学びをつくる学習問題設定の工夫に取り組んでいる。本研究において、これまでの福祉研のあゆみを生かし、授業づくりに取り組んでいくことで更なる研究の深化が図られると考える。

(4) 子どもの実態から

本学級の児童に歴史の学習に関するアンケートを行った。

Q1 歴史の学習は好きですか？

とても好き 52.6% 好き 47.4%

Q2 どのところが好きですか？

歴史上の人物のそれぞれの考え方があって面白い どんなことをしたのか知れるから。

Q3 日本の歴史や世界の歴史についてもっと知りたいと思いますか？

とても好き 78.9% 好き 21.1%

Q4 歴史上のできごとについて、いろいろな人の立場に立って考えることができますか？

とてもできている 52.6% できている 31.6% あまりできていない 15.8%

Q5 歴史の学習は、自分にとって必要だと思いますか？

とても必要 68.4% 必要 31.6%

以上の結果から、歴史学習に対する意欲は高いことが分かった。授業の様子からも、教師の発問に対して積極的に発言したり、意欲的に話し合ったりする姿は見られる。

しかし、歴史的事象を主体的に調べたり、歴史上の人物について多角的にとらえたりすることはできていない。アンケートの結果からも分かるように、歴史の学習に対して興味・関心はあるが、自分自身や自分が住んでいる地域とどのように関わっているかを考えたりすることはできておらず、歴史的事象や人物について一面的にしかとらえられていない。

3 主題の意味

(1) 「よりよい社会を形成する人物」とは

「よりよい社会」とは、グローバル化の進展や急速な技術革新、少子高齢化や新型コロナウイルス感染拡大による社会構造の大きな変化など、数年先でさえも予測が困難な時代において、国民一人一人が解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者と協働しながら、新たな価値を生み出していくことが期待される社会のことである。「よりよい社会を形成する人物」とは、そのような社会を創っていくために、周囲の人と協力したり相互理解したりする人物のことである。

(2) 「よりよい社会を形成する人物の営みを通して自分の生き方を創りつづける」とは

先述した「よりよい社会を形成する人物」の姿を見たり、話を聞いたり、調べたりして学ぶ中で、子ども達一人一人が、社会的な見方・考え方を働かせ、社会の中の諸課題を把握し、その解決に向けて「自分にはこんなことができる」「自分はこのように社会と関わる」「こんな社会をつくっていききたい」といった適切な解決策を選択したり判断したりしながら、社会と主体的に関わり続けていくことである。

そのために「社会の一員として、解決すべき課題を積極的に見出そうとする姿」「社会の一員として、課題の解決に向けて、他者と協働する中で新たな価値を生み出すために主体的に関わろうとする姿」を目指し、社会への関わり方を考えつづけていくことが大切である。

(3) 「子どもが主体的に学習問題を追究する」とは

既習や生活経験の中で獲得した知識や見方・考え方を働かせながら、学習問題を解決しよ

うとしていることである。さらには、調べていく中で残された問題や新たな学習問題を明確にし、さらに追究しようとする意欲が持続している子どもの姿である。

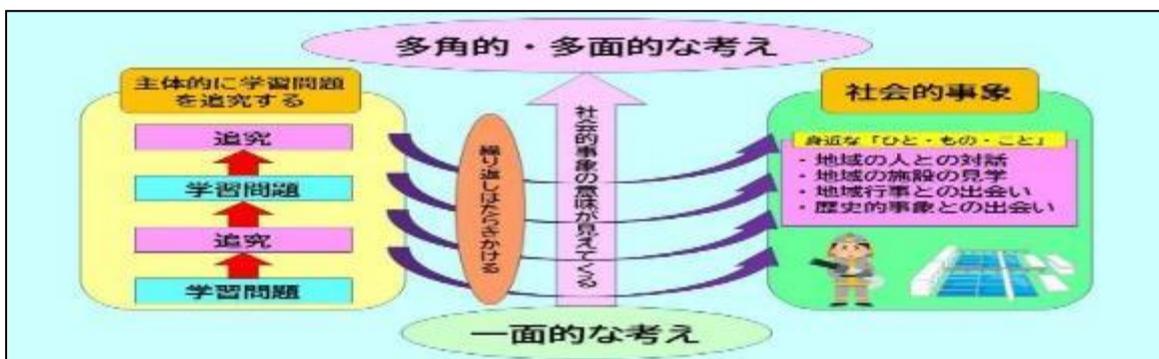
常に問題意識をもち進んで社会的事象に関わる。その中で興味や関心を高めながら追究して得た知識や事実などを選択したり、関係づけたりすることで子どもたちは社会的事象についての考えを深めることができる。さらに、事象追究の過程で新たな事実や矛盾などに出会い、さらに新たな学習問題を生み出すことで何度も社会的事象に関わり続け、子どもたちの一面的な考えを多面的にしていく。

(4) 「子どもが主体的に学習問題を追究する教材化の工夫」とは

問題解決的な学習過程において、社会的な見方・考え方を働かせながら学習問題の解決に向けて追究していこうという意欲をもち、社会的事象に対して自分から何度も繰り返し関わり続けるための教材化を図る工夫である。

社会的事象である「ひと・もの・こと」に対して、その背景や原因などを捉えられていないため、子どもの考えは一面的であることが多い。そのような一面的な考えに矛盾する事実などを提示することによって、新たな問いを生起させ、学習問題として設定することができる。

そして、学習問題を解決するために、社会的な見方・考え方を働かせながら、追究意欲をもち繰り返し社会的事象に働きかける。このように、何度も社会的事象に関わり、はたらきかけることが、よりよい社会を形成していく生き方を創りつづけることに繋がっていくのである。そして、社会的事象である「ひと・もの・こと」に対して追究を繰り返す中で、多角的・多面的に考えたり、社会的事象の意味を捉えたりすることができる。(図1)



【図1 子どもの考えが多角的・多面的になるとは】

4 研究の目標

社会科学習指導において、「人物の営み」を通して、社会的な見方・考え方を働かせながら主体的に学習問題を追究することができる子どもを育てる方途として、地域教材を用いた学習の在り方とその有効性を究明する。

5 研究の仮説

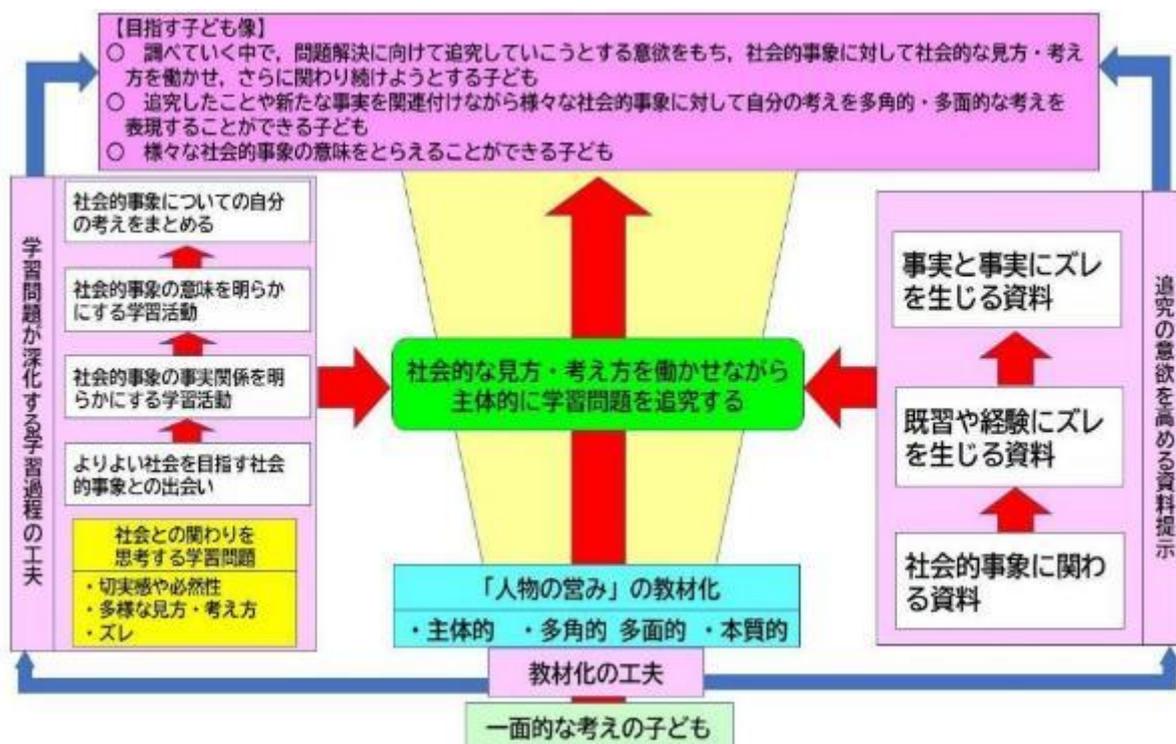
(1) 研究の仮説

子どもの考えに沿いながら、次のような手立てをとれば、社会的な見方・考え方を働かせながら子どもは主体的に学習問題を追究することができ、自らの生き方を創りつづけるのである

う。

- 社会的事象である「人物の営み」の視点に沿った教材化
- 学習問題が深化する学習過程の工夫
- 追究する意欲を高める資料提示

(4) 研究構想図



6 研究の計画(授業の計画)

(1) 実践 I

- ①単元「室町文化と力をつける人々」
- ②単元の目標及び指導計画

単元	室町文化と力をつける人々	総時数	9時間	時期	9月
単元の目標	○室町時代の文化の特徴やそれらの文化が現代まで受け継がれていることを理解することができる。(知識及び技能) ○室町時代に栄えた文化やその文化に関わる人物について、多角的に捉え、自分の考えを表現することができる。(思考力、判断力、表現力等) ○歴史的な事象について調べていく中で、時代同士のつながりや人物の営みについて主体的に追究しようとする。(学びに向かう力、人間性等)				
次時	具体的な目標	学習活動・内容		指導上の留意点(働・嬖)	

1	1	室町文化やその文化に関わる人物に関心をもち、気づいたことや疑問に思ったことを出し合うことができる。	○書院造の部屋の特徴をとらえる活動を通して、単元の課題をつかむ。	・学習の見通しをもつことができるように、書院造の部屋や今の和室の写真をもとに、室町文化を概観させ、室町時代の文化が現代にも受け継がれていることをとらえさせる。
2	2	雪舟と地域との関わりについて主体的に追究しようとする。	○雪舟と地域との関わりについて調べる。	・雪舟と地域との関わりについて、1学期に行った水墨画体験を想起させたり、天橋立図を提示したりする。
	3 4	雪舟が僧であったことや中国で水墨画を学んだことをとらえることができる。	○郷土本を活用して調べたり、学芸員にインタビューしたりしてその内容をまとめる。	・雪舟の思いや生い立ちについて、郷土本の読み取りやインタビューを通してとらえさせる。
	5 本時	雪舟が魚樂園を造った理由について自分の考えをまとめることができる。	○調べたりインタビューしたりして分かったことを出し合い、魚樂園を造った理由を話し合う。	・雪舟の思いに気づくことができるように、資料などを基に、魚樂園を造った理由を考えさせる。
	なぜ雪舟は川崎町に魚樂園を造ったのか。			
3	6 7	室町文化や人物について理解することができる。	○室町時代の文化や人物について調べる。	・室町文化や人物について知ることができるように、茶の湯の様子や能の舞台等をもとに調べ、室町文化がどのようにして発展したかを調べさせる。
	8	室町文化についてまとめることができる。	○室町文化やその文化に関わる人物についてまとめる。	・時代のつながりに気づくことができるように、武士や貴族の間で広まった文化と農民や町人の暮らしの中から生まれた文化に分けてまとめさせる。
		3	8	深める

4	9	ALT の先生に紹介するという目的に合うように自分の考えをまとめることができる。	○ALT の先生に紹介するために室町文化をまとめる。	・室町文化や人物について多角的にとらえることができるように、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめさせる。
---	---	--	----------------------------	--

③授業の実際

ア 主眼

雪舟が自分たちの住む地域にある魚楽園を造ったことに対する自分の考えを出し合って話し合う活動を通して、地域の歴史的事象について多角的にとらえ、自分の考えをまとめることができる。

イ 準備

教師：魚楽園の写真や資料、ワークシート 児童：学習の感想(プリント)

ウ 展開

展開	学習活動	指導上の留意点 (○) と評価 (※)
つかむ	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○ 学習の見通しをもつことができるように、学習やインタビューの様子を写真や資料を使って振り返らせる。
	めあて 雪舟について調べたりインタビューしたりして、分かったことや考えたことを出し合おう。	
	2 雪舟について調べたりインタビューをしたりして分かったことや思ったことを出し合おう。	○ 雪舟や魚楽園について振り返ることができるように、これまでの学習を基に自分の考えをまとめさせておく。 ○ なぜ雪舟が魚楽園を造ったかについて問いをもつことができるように、児童のノートを紹介する。 ○ 学習問題をつかむことができるように、魚楽園以外の雪舟が造った庭園を提示する。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 雪舟について ・僧として仏教の教えを広めていた。 ・中国で水墨画を学んだ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 魚楽園について ・雪舟が荒平に造った。 ・国の名勝に指定された。 ・小笠原公も訪れた。 </div> </div>	
	なぜ雪舟は川崎町に魚楽園を造ったのか。	

予想する	3 雪舟が川崎町に魚樂園を造った理由について話し合う。	○ 多様な考えを理解することができるように、児童の予想を観点ごとに板書する。	
	<table border="1"> <tr> <td>雪舟の人間性から ・僧なので、仏教の教えを広めたい。 ・水墨画を展示したい。</td> <td>魚樂園から ・平和への願いをこめて造った。 ・仏教の教えを表現したかったから。</td> </tr> </table>	雪舟の人間性から ・僧なので、仏教の教えを広めたい。 ・水墨画を展示したい。	魚樂園から ・平和への願いをこめて造った。 ・仏教の教えを表現したかったから。
雪舟の人間性から ・僧なので、仏教の教えを広めたい。 ・水墨画を展示したい。	魚樂園から ・平和への願いをこめて造った。 ・仏教の教えを表現したかったから。		
／ まとめる	4 学芸員の回答から、予想を確かめる。	○ 雪舟が魚樂園を通して伝えなかった思いに気づくことができるように、子ども達の疑問に対する学芸員の回答を伝える。	
	<table border="1"> <tr> <td>雪舟が、川崎町に魚樂園を造ったのは、仏教の教えを世の中に広めるため。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>まとめ 雪舟は、魚樂園を造り、仏教の教えを全国に広めたかった。</td> </tr> </table>	雪舟が、川崎町に魚樂園を造ったのは、仏教の教えを世の中に広めるため。	まとめ 雪舟は、魚樂園を造り、仏教の教えを全国に広めたかった。
雪舟が、川崎町に魚樂園を造ったのは、仏教の教えを世の中に広めるため。			
まとめ 雪舟は、魚樂園を造り、仏教の教えを全国に広めたかった。			
	5 学習したことを振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	○ 多角的に見ることの良さに気づくことができるように、友達の考えを基に、自分の考えを付加・修正させて、ふり返りを書いて発表させる。 ※ 雪舟が魚樂園を造ったことについて自分の考えをまとめることができているか。 ○ 次時は、室町文化や人物について調べることを告げ、見通しをもたせる。	
	<table border="1"> <tr> <td>はじめは、雪舟は水墨画を展示するために魚樂園を造ったと思ったけど、学芸員さんの話を聞いて、仏教の教えを広めたかったことに気づきました。</td> </tr> </table>	はじめは、雪舟は水墨画を展示するために魚樂園を造ったと思ったけど、学芸員さんの話を聞いて、仏教の教えを広めたかったことに気づきました。	
はじめは、雪舟は水墨画を展示するために魚樂園を造ったと思ったけど、学芸員さんの話を聞いて、仏教の教えを広めたかったことに気づきました。			

(2) 実践Ⅱ

①単元「全国統一への動き」

②単元の目標及び指導計画

単元	全国統一への動き	総時数	11時間	時期	10月
単元の目標	○天下統一を目指した織田・豊臣・徳川の営みを手がかりに、戦国の世が統一されたことを理解することができる。(知識及び技能) ○天下統一を目指した織田・豊臣・徳川の営みについて、多角的に捉え、自分の考えを表現することができる。(思考力、判断力、表現力等) ○歴史的事象について調べていく中で、時代同士のつながりや人物の営みについて主体的に追究しようとする。(学びに向かう力、人間性等)				
次時	具体的な目標	学習活動・内容		指導上の留意点(働・嬖)	

1	1	戦国の世の中や3人の武将に関心を持ち、気づいたことや疑問に思ったことを出し合うことができる。	○応仁の乱の様子と長篠合戦 図屏風を比べる活動を通して、単元の課題をつかむ。	・学習の見通しをもつことができるように、屏風絵や年表をもとに、戦国の世の中を概観させ、3人の武将を中心に全国統一が成し遂げられたことをとらえさせる。
		織田・豊臣・徳川はどのように全国統一を目指したのか。		
2	2	織田信長の戦いや政策について理解することができる。	○織田信長の政策について調べる。	・織田信長について知ることができるように、安土城と城下町の想像図や勢力拡大図等をもとに、信長がどのようにして力を伸ばしたか、どのような政策を進めたのか調べさせる。
		3	秀吉と町や地域との関わりについて主体的に追究しようとする。	○豊臣秀吉と地域との関わりについて調べる。
7 本時	4 5 6	岩石城が難攻不落の城であったことをとらえることができる。	○岩石城跡を見学したり、学芸員にインタビューしたりしてその内容をまとめる。	・岩石城が難攻不落であったことを見学や体験、インタビューを通してとらえさせる。
	7	秀吉が岩石城を1日で落とした理由について自分の考えをまとめることができる。	○見学したりインタビューしたりして分かったことを出し合い、岩石城を1日で攻め落とした理由を話し合う。	・秀吉の政策の意図に気づくことができるように、資料などを基に、岩石城を1日で落とした理由を考えさせる。
	なぜ豊臣秀吉は難攻不落と言われた岩石城を1日で攻め落としたのか。			
8	8	豊臣秀吉の戦いや政策について理解することができる。	○豊臣秀吉の政策について調べる。	・豊臣秀吉について知ることができるように、検地や刀狩りの様子の想像図等をもとに調べ、秀吉がどのようにして力を伸ばしたかを調べさせる。

	9	徳川家康の戦いや政策について理解することができる。	○徳川家康の政策について調べる。	・徳川家康について知ることができるように、江戸図屏風や関ヶ原合戦図屏風等をもとに、家康がどのようにして力を伸ばしたかを調べさせる。
3	10	3人の戦いや政策についてまとめることができる。	○3人の武将がどのようにして全国統一を進めたのかをまとめる。	・時代のつながりに気づくことができるように、3人の戦いや政策を時代の流れに沿ってまとめさせる。
4	11	それぞれの立場に立って、理由をまとめることができる。	○武士・農民・商人の立場に立って、戦国の世の中について考える。	・歴史的事象や人について多角的にそれぞれの立場から捉えることができるように、これまでの学習を振り返り、自分の考えをまとめさせる。

③授業の実際

ア 主眼

豊臣秀吉が自分たちの住む地域にある岩石城を1日で落としたことに対する自分の考えを出し合って話し合ったり、学芸員の話やインタビューを通して、地域の歴史的な事象について多角的にとらえ、自分の考えをまとめることができる。

イ 準備

教師：岩石城見学の様子や写真や資料、攻城作戦に関する資料

児童：見学の感想(プリント)

ウ 展開

展開	学習活動	指導上の留意点(○)と評価(※)
つかむ	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○ 学習の見通しをもつことができるように、見学やインタビューの様子を写真や資料を使って振り返らせる。
	めあて 岩石城を見学したりインタビューしたりして分かったことや考えたことを出し合おう。	

予想する	2 岩石城を見学したりインタビューをしたりして分かったことや思ったことを出し合う。	<p>地理的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標高 454 メートル ・ 傾斜 () 度 ・ いろいろなルートがあったが、どこも登りにくい。 	<p>歴史的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な豪族に攻められたが、落とすことができなかった ・ 秋月氏の城の中でも最も堅固といわれた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岩石城について振り返ることができるように、地理的要因や歴史的要因を基に自分の考えをまとめさせておく。 ○ なぜ秀吉が岩石城を落としたかについて問いをもつことができるように、児童のノートを紹介する。 ○ 学習問題をつかむことができるように、古処山城を攻める計画を覆して、岩石城を1日で攻め落としたという資料を提示する。
	なぜ豊臣秀吉が難攻不落と言われた岩石城を1日で攻め落としたのか。			
	3 秀吉が1日で岩石城を攻め落とした理由について話し合う。	<p>力を見せつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の力を示す。 ・ 敵を全滅させる ・ 九州を自分のものにする 	<p>早く九州を平定したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く戦いを終わらせたい ・ 早く九州を平定すれば兵の命を守れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な考えを理解することができるように、児童の予想を観点ごとに板書する。
	4 学芸員の話聞いて、予想を確かめる。	豊臣秀吉が1日で岩石城を落としたことにより、他の武将が降伏し、結果的に争いや命の犠牲が少なく済み、早く九州平定をすることができた。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 秀吉の考えを理解することができるように、秀吉が岩石城を落とした後、戦わずして勝利を収めたことを確認する。 ○ 学芸員には、児童の意見を価値付けてもらいながら、出ていない事柄については補足して話してもらう。
ふりかえる	まとめ 豊臣秀吉は1日で岩石城を落とすことで自分の力を示し、早く天下統一をすることを目指した。			
	5 学習したことを振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	はじめは、敵を全滅させるためだと思っていたけど、友達の話聞いて、争いが少なくなれば、命の犠牲も少なくなることに気づきました。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 多角的に見ることの良さに気づくことができるように、友達の考えを基に、自分の考えを付加・修正させて、ふり返りを書いて発表させる。 ※ 豊臣秀吉が岩石城を落としたことについて自分の考えをまとめることができるか。 ○ 次時は、豊臣秀吉の政策について調べることを告げ、見通しをもたせる。

7 研究のまとめ

(1) 実践 I 指導の実際と考察

出会う段階では、まず、書院造の部屋と今の和室の部屋を比較させた。「おばあちゃんの家」に似ている。「自分の家にもある。」など、自分の身近な所に室町文化があり、現代にも受け

継がれていることをとらえられた。更に、室町時代に生まれた文化について調べていくという学習の見通しをもつことができた。

調べる段階では、まず、児童が実際に行った水墨画体験を想起させた。墨と筆で絵を描く難しさについて写真を通して振り返り、天橋立図を提示することで雪舟の功績をとらえることができた。更に、郷土本を活用したり学芸員の方の話を聞いたりすることで、雪舟と地域との関わりについて気づくことができた。【図2】【図3】しかし、雪舟が築庭した魚楽園を見学することはできなかった。そのため、実際に見学することで分かる魚楽園の大きさや美しさ、雪舟の思いにまで触れことはできず、本時の問いである「なぜ雪舟は川崎町に魚楽園を造ったのか。」という問いに対して、多角的に表現することはできなかった。

深める段階では、ロイロノートを活用して、武士や貴族の間で広まった文化と農民や町人の暮らしの中から生まれた文化に分けてまとめさせた。これまでの学習を振り返りながら、意欲的に活動し、一つ一つの文化についてはとらえることができたが、時代のつながりを意識させることはできなかった。

生かす段階では、ロイロノートにこれまでの学習をまとめさせた。室町文化について全く知らないALTの先生に伝えるという目的意識をもたせることで、写真やイラストをとりいれ分かりやすくまとめることができた。

以上のことから、実践Ⅰにおいて、次の成果と課題が挙げられる。(○…成果 ●…課題)

- 郷土本を活用したり、地域の学芸員の方に話を聞いたりすることで、雪舟と地域との関わりに気づき、主体的に雪舟や魚楽園について調べることができた。
- 児童の水墨画体験を想起させることで、雪舟の功績について考えることができた。
- 雪舟の営みについてより多角的にとらえさせるためには、実際に魚楽園を見学し、地形や自然、地理的要因、雪舟の思いなどに触れる必要があった。



【図2】



【図3】

(2) 実践Ⅰ

出会ったのか、柵や旗は何に使われていたのかなど、児童は戦いの様子が変わっていることに気づくことができた。更に、年表や3人の武将を提示し、それぞれの武将がどのように全国統一を目指したのかという問いをもたせることができた。

調べる段階では、安土城の城下町の想像図や勢力拡大図等をもとに、信長の政策について調べ、まとめさせることで、織田信長の営みについて触れることができた。

豊臣秀吉と地域との関わりについて気づくことができるように、岩石城の写真を提示すると、児童は大阪城と予想した。そこで、その写真が岩石城であること、秀吉に一日で落とされたことを秀吉軍の進路図をもとに説明し、更に岩石城の位置と自分達が住んでいる町の場所を確認した。児童は、岩石城と自分達の住んでいる町の近さに驚くと同時に、歴史上の人物である豊臣秀吉と地域との関わりについて気づくことができた。郷土本を使って調べたり、学芸員の方のお話を聞いたりする中で、岩石城が豊前一の堅城であったことや難攻不落の城と呼ばれていたことを知った。【図4】更に、岩石城があった岩石山に実際に登ることで、堅城と呼ばれていた理由を知り、武器や鎧を身につけて登る大変さを身をもって体感することができた。

【図5】秀吉が古処山城を攻める計画を覆し、岩石城を攻め落とすという資料を提示することで、「なぜ豊臣秀吉は難攻不落と言われた岩石城を1日で攻め落とすのか。」という問いをもつことができた。児童はこれまでの学習から、「標高が高いから情報伝達ができる。」

「自分の力を見せつける。」「難攻不落と言われる岩石城を落とせば、逆に有利になる。」という予想を立てることができた。また、友達の考えをもとに自分の考えを付加・修正させることで、考えが変わったり深まったりし、多角的に見ることの良さに気づくことができた。更に、豊臣秀吉・徳川家康の政策を調べまとめることでそれぞれの営みに触れることができた。

深める段階では、時代のつながりに気づくことができるように、3人の戦いや政策をまとめさせた。3人の戦いや政策については正しく理解しておりまとめることができたが、時代のつながりについて深くとらえることはできなかった。

生かす段階では、武士・農民・商人の立場に立った時、どの武将につきたいかを考えさせることで、歴史的事象や人物について多角的にとらえることができた。武士の立場で考えた時に、「鉄砲を使うようになった」という一つの歴史的事象に対しても、「自分の身も危なくなるから信長にはつきたくない。」という意見があれば、「戦いで有利になるから信長につきたい。」という意見もあり、立場を考え、多角的にとらえられていた。

以上のことから、実践Ⅱにおいて、次の成果と課題が挙げられる。(○…成果 ●…課題)

- 地域教材である岩石城を通して、豊臣秀吉の営みに触れることで、主体的に学習に取り組むことができた。
- 実際に岩石山に登ることで、難攻不落と言われた理由を理解し、問いに対して実感を持った考えをもつことができた。
- 政策や人物については正しく理解しているが、人同士の関わりや時代と時代のつながりについて深く考えることができなかった。



【図4】



【図5】

8 成果と今後の課題

(1) 本研究の仮説から

① 社会的事象である「人物の営み」の視点に沿った教材化

本実践では、「a 追究してきた事実と矛盾がある教材であること。」「b 日々生活をしている地域の素材を含む教材であること。」を中心に行った。特に、魚樂園や岩石城などの地域教材を取り入れることで、これまで教科書の中に存在していた歴史的事象や人物を身近に感じ、主体的に学び続けることができた。そもそも魚樂園や岩石城などの地域の史跡を知らない児童が多く、興味をもって意欲的に学習することができた。地域の史跡に関わっていた雪舟の功績や豊臣秀吉の政策を調べる中で、一面的にとらえていた事象や人物に対して、主体的に学び続けることでなぜ？と自ら疑問をもち、多角的にとらえようとする姿が見られた。

地域教材を取り入れることは、他の学習の時間をどう確保するか、指導要領の内容と関わる授業にするためにどうすれば良いかなどの難しさはあるが、主体的に学び、多角的に表現するためには、重要なことだと実感できた。

② 学習問題が深化する学習過程の工夫

出会う段階では、資料を比較させることで、興味・関心をもって主体的に学習問題を追究することができるようにした。興味・関心は高いが資料の読み取りは苦手な児童が多いため、2つの資料を提示し、比較することでちがいをを見つけることができた。

調べる段階では、初めに郷土本やタブレットを活用し、地域と歴史的事象や人物との関わりについて調べさせた。調べていくと、主体的に学習に取り組んでいるため、なぜ？どうして？という疑問や問いが多く生まれるが、郷土本やタブレットでは、自分たちの疑問や問いを解決するための答えは中々見つからなかった。そこで、学芸員の方の話を聞いたり、インタビューをしたり、実際に見学したりすることで、疑問や問いを解決しながら、自分の考えをまとめ、新たな問いを見出すことができた。

深める段階では、これまで学習してきたことを振り返ったり、友達の考えと比較したりすることで、学習問題に対する自分の考えを多角的に表現することができた。

生かす段階では、これまでの学習を生かして、自分なりに考えをまとめたり、自分だったらどうするかを考えたりすることができた。

③ 追究する意欲を高める資料提示

児童の経験や思考からズレを生じさせる資料提示を行った。実践Ⅰでは児童の水墨画体験を想起させ、天橋立図を提示した。水墨画体験を通して筆と墨を使って絵を描く難しさを体感している児童にとって、天橋立図は衝撃的な絵であり、雪舟の功績について知りたいという意欲を高めることができた。

実践Ⅱでは、豊臣秀吉が1日で岩石城を落としたことから、秀吉の強さや計画性に興味をもっていましたが、岩石城が難攻不落の堅城であったことや計画を覆したことから、なぜ？という問いをもつことができた。

このことから、児童の経験や思考とのズレを生じさせることで、児童は主体的・多角的に学習に向かうことができるといえる。

(2) 子どもの姿の変容から

実践前のアンケート結果から、課題が見られた児童の姿は、次のように変容していた。

歴史上のできごとについて、いろいろな人の立場に立って考えることができますか？					
実践前					
とてもできている	52.6%	できている	31.6%	あまりできていない	15.8%
実践後					
とてもできている	68.4%	できている	26.3%	あまりできていない	5.3%

歴史的事象に対して、いろいろな人の立場に立って考えることができていると実感している児童が増えた。実践前は、歴史の学習に対して、興味・関心が高く意欲的であったが、主体的に課題を見出したり、多角的に考えを表現したりすることはできていなかった。

しかし、実践を通して、経験や思考のズレからなぜ？と問いを見出し、主体的に学習をしたり、インタビューや交流を通して、一面的にとらえていた事象や人物に対して多角的

に考えを表現できるようになった。

実践後の授業の中でも、歴史的事象や人物に対して「なぜそんなことをしたのだろう？」
「自分は今このように考えているけど、立場を変えたら…」という発言をしている。新たに生まれた問いの答えを進んで探することができるようになれば、更に主体的に学習しているといえるだろう。

(3) 成果と課題

- 地域教材を活用することで児童は主体的に学習に取り組み、経験や思考のズレを提示することで多角的に自分の考えを表現することができた。
- 実際に見たり聞いたりして体験することで、より社会的事象の見方・考え方を働かせながら、歴史的事象や人物の思いに触れ、自分の考えをまとめることができた。
- 地域教材を活用するための時数を確保したり、指導要領の内容と関連づけたりすることへの難しさがあった。

<参考文献>

- ・ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編 文部科学省 日本文教出版株式会社 2018
- ・ かわさきワクワク発掘隊！ 郷土愛育成プログラム推進委員会 ラ・ファミ 2017
- ・ そうなん？かわさき 郷土愛育成プログラム推進委員会 ラ・ファミ 2017
- ・ 知ってる？添田町の歴史 添田町 まちづくり課 株式会社 談 2016
- ・ 戦国九州軍記 高木俊雄 学習研究社 1989